

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(生命理工医療科学先端研究特論)(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講師 三光舎 所長 長嶺 敬彦 先生
 2. 演題 創造的な研究を行うために、脳の大規模ネットワークを活用しよう
ーサリエンス回路が鍵を握るー
 3. 日時 2020年12月14日(月)17時00分～19時00分
 4. 場所 Zoomによる遠隔講義(IDとパスコードにつきましては下記へ連絡願います)
 5. 要旨 論文がアクセプトされるには新規性が求められます。しかしそれを強調しすぎると、“something newism!”が研究であると誤解することになります。「人と違えば価値がある」、この考えは危険です。研究では、新規性ではなく、創造性が大切です。新規性は人と違うことをすれば完結しますが、創造性はむしろ人と同じ土俵に立つことから始まります。目の前の現象を既存の知識で説明することから始めなければなりません。その先に創造的な脳回路が機能します。日本古来の表現では、「守破離」で、「守」からはじめて、独創性である「離」に至ります。つまり、過程を通して脳回路の鍛錬が必要だと思います。
- 創造性の脳回路に関する研究は進んでいます。創造性のマーカーを「拡散思考」として、脳機能画像で研究する手法です。この回路は前回の講義で話しましたが、再度取り上げ、創造性が実を結ぶには「共感」が必要であることを追加してみます。「知魚楽」の逸話から共感と研究について考えてみましょう。時間があれば、臨床疑問を基礎研究につなげることの重要性について触れてみたいと思います。

主催：豊福 明（歯科心身医学分野 内線 5909）

連絡先：竹之下 美穂(takenoshita.ompm@tmd.ac.jp)